

医学部 100 周年記念写真集について



医学部学生後援会(PTA)会長
阿部 高明

今年の2月上旬に医学部経理課財務係から皆さんのお手元に「東北大学医学部 100 周年記念写真集」関連書類在中という封書が届いたと思います。中には写真集刊行と「未来医療への22世紀基金」へのご支援のお願いが入っており、突然の書類で怪訝に思われたご父兄も多いと思います。

東北大学医学部には2つの記念すべき源流があります。明治5(1872)年に中目齊、石田眞両氏によって私立共立社病院・県立医学校が設立された年を起点としているのが良陵同窓会であり今年が148年目にあたります。一方、大正4(1915)年に東北帝国大学が設立された年を起点とするのが今回の医学部100周年記念行事であります。医学部創立100周年記念行事は平成27(2015)年に良陵記念ホールで祝賀式典と各種記念行事が行われました。その一環として当時の下瀬川徹学部長から医学部100周年記念写真集を作ってみてはどうかという話があり、私が編集長に指名されました。作製上、全体を通して心がけたことは単に写真に掲載しただけではその人が誰なのか何に関する写真なのかどこから引用したかが後々分からなくなるので、写真集とはいえ出来るだけコメントや解説、出典をつけました。このような地道な作業をしたため編集は遅々として進まず、完成する3年間に3人の学部長の先生(下瀬川徹、五十嵐和彦、八重樫伸生各先生)の手を患わせることになってしまいました。

東北大学医学部からはこれまでは多くの世界的発見や医療が発信されてきており(センダイウイルス、葛西の手術、もやもや病、日本初のペニシリンの製造と臨床研究、ナイアシントテスト、小川培地、癌集団検診、CTの原理の発見、体外受精等)、本写真集は可能な限り収載しました。また東北大学医学部は創設以来、明治三陸津波、関東大震災、昭和三陸津波、チリ地震津波、そして東日本大震災など数多くの災害に直面した際に積極的に震災地の支援に駆けつけており、その事案を東北メディカル・メガバンクとともに取り上げております。全体の資料に目を通して感じたことは如何に卒業生が母校を愛していたことかと言うことです。ある先生は良陵同窓会に多くの貴重な資料を寄贈して頂き、ある先生は終戦時台湾から引き上げ来る際に卒業アルバム

を大切に持ちかえってきました。また魯迅を教えた藤田巖九郎先生が仙台医専を離れる際には卒業生を頼って三井記病院で耳鼻科を学び地元に戻ったこと、その息子さんが東北帝国大学医学部に入学したことなども今回初めて知りました。過去の正史の編纂にも多くの同窓生の先生が多大なご尽力をされてきましたことは銘記すべきと思いました。

今回「東北大学医学部100周年記念写真集」を非売品として「未来医療への22世紀基金」ご寄付の返礼にしたのは、皆様のご篤志を次の100年の東北大学医学部を担う教育・研究の支援に使わせて頂き、東北大学医学部の体力を強化して22世紀に羽ばたく次世代の東北大学医学部を作り上げて行きたいという歴代学部長の熱い思いから発案されたものです。この基金の充足によって将来、センダイウイルスを上回るような世界的な大発見が「トウホク」から皆さんのご子息によって達成されるような大学になっていって欲しいと願っております。

堅苦しくなりましたが、本写真集はソファーに横になって気楽にばらばらめくってもこの100年間に医学部がどのように発展してきたのかが一目で分かるような写真集になっております。また息抜きとして星陵地区内に展示、設置してある歴史的建造物、石碑・顕彰碑、樹木、扁額、書物も「ぶらり星陵」として載せておりキャンパスの探索にも使えるようになっております。

どうぞご父兄におかれましては東北大学医学部のこれまでの道をご覧頂き、また将来のお子さんたちの道を整備するお力添えを頂きますよう宜しくお願いいたします。



令和元年度医学部オープンキャンパスを開催しました



令和元年7月30日(火)、31日(水)の2日間、東北大学医学部・医学系研究科オープンキャンパスが星陵キャンパスにおいて開催されました。猛暑の最中、学生実行委員、学生ボランティア、教職員が一体となって5,970名の来場者をお迎えすることができました。

医学科からの報告です。

今年も様々な企画を揃え、来場者に医学科をより深く理解してもらうことができるような内容となりました。「医学科案内ツアー」では、研究現場、最新の研究・治療機器などを見学しましたが、整理券待ちの長蛇列ができ、最も人気の高い企画となりました。また、星陵オーデトリウム講堂にて大学の講義を体験する「記念講演・講義」、実習室で大学の実験を体験する「実験実演コーナー」、さらに良陵会館のスキルラボにて「手技体験」「救急体験」を行いました。これらも前年度を大幅に上回る来場者数があり、大変好評でした。この他、「医療を覗き見!コーナー(ビデオ上映)」では医学科学生が高校生たちに解説を行いながらの上映を行い、「入試相談会」「学生と語ろう」では高校生からの様々な質問に答え、いずれの企画にも多くの高校生が詰めかけました。また、新たにポスターを利用した「研究室紹介」を行い、来場者の待ち時間活用にも役立ちました。

加えて、今年度も来場者が様々な企画に参加し医学部を幅広く知ってもらうため、「シールラリー」(シールを集めて景品と交換)を実施し、好評を得ました。

さらには、「大学病院」「加齢医学研究所」「エコチル調査宮城ユニットセンター」「東北メディカル・メガバンク機構」からも出展があり、参加者にとって得るものが多いオープンキャンパスになったかと思います。



医学部オープンキャンパス推進委員会

委員長

保健学科広報部会長

大学院医科学修士課程長

神宮 啓一
林 慎一
酒井 寿郎

保健学科からの報告です。

「模擬講義」「保健学科案内ツアー」「実習体験コーナー」「デモンストレーションコーナー」の企画を準備し、各専攻の特徴を分かりやすく理解できる機会を設けました。また、「保健学科入試・カリキュラム・卒後の進路等の相談コーナー」の他、「卒業生と語ろうコーナー」「在学生による入試体験談や学生生活相談コーナー」



では学部及び大学院生、卒業生と触れ合う場を設け、卒業後の進路までをイメージしてもらえるように工夫しました。

看護学専攻では、ツアーや実習体験コーナーなどを準備しました。参加者は、実際に新生児モデルに触ったり、看護の基礎的な技術を体験したりと様々な体験を楽しんでいました。

放射線技術科学専攻では、ツアーやデモンストレーション、模擬講義での専攻紹介を実施しました。

検査技術科学専攻でも学生がツアーや展示、お話しコーナー等を実施する他、模擬講義も担当しました。

大学院医学系研究科からの報告です。

大学院パネル展示コーナーにおいて、医学部の学生が卒業後どのようなキャリアを積んでいるのか、入学後どのような研究をしているのかを、ポスター展示により行いました。



参加した高校生にとっては、大学進学だけでなく将来について考える機会を与える場となり、また、大学院への入学希望者にとっては、キャンパス内にて医学系研究科の活力を感じる機会になりました。

年々参加者数が増加し、今年も6000人に迫り大変盛況な2日間のオープンキャンパスとなりました。最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご援助に心から感謝申し上げます。

第24回東北大学医学祭 開催報告

東北大学医学祭実行委員長 東北大学医学部医学科5年 阿久津 諒



学生後援会会報をご覧の皆さま、いつも学生の活動へのご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。この度、2019年10月14日(月・祝)に「第24回東北大学医学祭」が開催されましたので報告いたします。

すでに会報でも何回かご紹介させていただきましたが、「東北大学医学祭」は3年に1度、東北大学医学部で学生を中心に運営される文化祭イベントです。医学部・歯学部のある星陵キャンパスで開催されることから、医学・医療に着目した企画が多いのが特長の1つです。

2019年10月13日と14日の2日間に渡って開催する予定でしたが、東日本を中心に甚大な被害をもたらした「台風19号」の接近に伴い、安全面を考慮して13日を中止とし、14日みの開催に変更いたしました。直前での変更となり、ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。また、今回の台風で被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

天候に不安のある中、1日で2000人近い方々に足をお運びいただきました。たくさんの皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。

今回の医学祭のテーマは「医療が結ぶ地域の輪」でした。地域の皆様(特に未就学児・小学生の子ども連れご家族)にたくさんご参加いただけたことで、テーマに定めたようなイ

ベントにすることができたと思っております。

医学祭では来場者の皆様実際に手を動かして「体験」していただく企画を多く取り入れようと考えて準備を進めてまいりました。医療手技体験や救急体験ではたくさんの方に参加いただき、手術や検査のシミュレーター、練習用AEDで「体験」をしていただきました。小さなお子様も「ぬいぐるみびょういん」企画を通して医療従事者の仕事について「体験」してもらえたのではないかと思います。東北大学に特徴的な「東北メディカルメガバンク機構」についても、クイズという形式で未来型医療を「体験」いただけたかと思います。医学祭での「体験」を通して、来場者の皆さまが新たな発見をし、医学・医療、さらには自身の健康について少しでも興味をもっていただけたならば幸いです。

今回の医学祭開催につきまして、医学部後援会様よりご寄付を頂戴いたしました他、多数の保護者の皆さま、本学OB・OGの皆さまより暖かいご支援を頂きました。重ねて厚く御礼を申し上げます。



東北大学医学部懇談会(保護者会)を開催しました。

本学部では、医学部学生後援会との共催で「東北大学医学部懇談会(保護者会)」を東北大学星陵キャンパスにおいて、令和元年10月14日(月)に開催しました。

同懇談会は全体会と各学科・専攻に分かれた分科会の2部構成で行われ、当日は、200名程の多数の保護者様にご参加頂きました。

全体会では、八重樫 伸生医学部長、富永 悌二病院長、阿



全体会の様子

部 高明医学部学生後援会会長の挨拶、医学部及び医学部学生後援会役員の紹介、その後、大学院医学系研究科・障害科学専攻の中里 信和教授より「知って安心、てんかん」をテーマとして講演が行われました。



八重樫学部長の挨拶

各学科・専攻に分かれた分科会では、医学部教員より各学科紹介、カリキュラム、キャリアパス、学生生活の問題点、修学資金、大学院の教育内容等の説明、研究室訪が行われ、活発な意見交換がありました。

ご出席していただいた保護者の方々のアンケートで様々なご意見をいただきましたので、今後の医学部の教育活動に反映させてまいります。台風19号の影響があったにも関わらず、また、お忙しい中、ご出席いただいた保護者の方々に改めて御礼申し上げます。

令和元年10月16日(水) 東北大学医学部

保健学科検査技術科学専攻のウェアセレモニーを行いました



2019年9月24日、医学部保健学科検査技術科学専攻のウェアセレモニーを行いました。

八重樫医学部長と大森保健学科長から白衣の由来や実習心得などについての激励の挨拶の後に、検査技術科学専攻の担当教員から、これから臨床実習に進む学生全員にウェアが授与されました。

最後に、代表学生の菅原さんが力強く決意表明を行いました。



保健学科放射線技術科学専攻のウェアセレモニーを行いました



2019年9月19日、医学部保健学科放射線技術科学専攻のウェアセレモニーを行いました。

八重樫伸生医学部長と大森純子保健学科長と診療放射線技師長の坂本先生からの激励を交えた挨拶の後、担当教員から、学生一人一人に東北大学ロゴマークの入った真新しい白衣が授与されました。

最後に学生代表の伊藤さんが、これから臨床実習に向かう決意表明を力強く行いました。

今年度より、保護者の方々の参加も有り、充実したセ

レモニーとなりました。



医学分館の学習用図書の整備および改修工事について

東北大学附属図書館医学分館長 北本 哲之

医学分館では、星陵キャンパスに所属する学生・教職員の方々の学習・研究・教育に必要な資料やサービスを日々提供しております。特に学生が必要とする図書の充実に努めておりますが、医学書は頻りに改版される上に高額であるため、十分に整備ができていないと言いが実情です。このような中で、今年度も医学部学生後援会から学生用図書整備の御支援を賜ったことは大変ありがたく、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最近、パソコンやスマートフォンを利用して、図書館以外でも利用できる電子ブックの出版が増加していますが、その利便性の高さから利用者の需要も高まっています。そこで昨年に引き続き、図書34点のほか、基礎医学や医学統計など多くの利用が見込まれる電子ブック12点の整備に利用させていただきました。

現在、医学分館は老朽化に伴う改修工事のため8月

から休館し、加齢医学研究所内に臨時図書室を開設しております。リニューアルオープンは2020年秋以降となる見込みで、利用者

のみなさまには長期にわたり大変ご不便をおかけいたしますが、改修後の医学分館は、空調設備・トイレの一新、書架の耐震強化、グループ学習エリアの拡張など、学習・研究環境を大幅に改善した安全で快適な空間に生まれ変わりますので、どうぞご期待ください。



令和元年度医学科3年次基礎医学修練発表会のご報告

医学科運営委員会委員長

石井 直人

医学科3年次基礎医学修練発表会実行委員会委員長

米山虎太郎

令和元年度の基礎医学修練発表会は、12月26日（木）、27日（金）の2日間行われ、発表者は口頭で100人でした。今年度は約4ヶ月という基礎医学修練の期間で、各学生が自分のテーマに沿って研究を進めてまいりました。担当教員の方々によるご指導のもと、研究の難しさや面白さを感じられた貴重な経験でした。本発表会では、その成果を互いに共有しあう有意義な時間を過ごすことができました。

また、学生間で質疑応答を交わす姿も多く見られ、今後につながるようなやり取りが見受けられたことも非常に嬉しく感じた次第です。

例年同様、発表会の運営は学生で組織された実行委員会を中心に行いましたが、各メンバーに協力してもらいながら、無事2日間の運営を行うことができました。事前の話し合いなどにも参加してもらい、評価方法や抄録のとりまとめなど、

多岐にわたる仕事を分担してこなしてもらいました。

今年度も優秀な発表をした学生に賞状と副賞として商品券を贈呈することになり、御寄付から拝借いたしました。

今年度の基礎医学修練発表会を無事に運営できたのは、ひとえに学生後援会の御寄付及び多くの方々のご支援を賜ったおかげでございます。

関係者一同、多大なるご支援を心より感謝申し上げます。



口演発表の様子



基礎医学修練発表会最優秀者表彰式

第13回リトリート大学院生研究発表会について

第13回リトリート大学院生研究発表会 実行委員会

医学部学生後援会のご支援を頂き、令和2年1月11日（土）に、東北大学星陵キャンパス星陵オーデトリウムで、『第13回リトリート大学院生研究発表会』が開催されました。このリトリートは、医学系研究科の多様な分野に所属する大学院生が集い、運営する、学生主体で作り上げる研究発表会です。また例年、大学院生だけでなく多くの医学部学生にも参加していただいております。

第13回となる今年度は、合計126題（口頭発表28題、ポスター発表97題、抄録掲載のみ1題）の演題を受け付け、当日は191名の方々にご参加いただきました。例年よりも多くの演題に、会場では分野の垣根を越えた活発な議論や交流が盛んにおこなわれました。普段は触れることのない研究分野に触れ、参加者の皆様にとっては、今後の研究に良い刺激を得る機会になったと確信しています。また、今年度からより多くの方にご参加いただき、プレゼンテーション技術の向上や更なる研究の飛躍につなげていただくために、まだ明確な成果は出ていないが、発展途上にある研究課題も広く募集することとなりました。

さらに今回のリトリートでは4名の医

学部学生に発表を行っていただきました。いずれも大学院生顔負けの素晴らしい発表でした。参加いただいた学部生には、医学部学生後援会より、優秀学部生賞が授与されました。多くの教員や大学院生が参加する中での発表は、非常に緊張したことと思いますが、今後の研究キャリアへの大きな糧となったことと思います。実行委員会では、今後も素晴らしい研究をなさっている医学部学生に、より多くご参加いただけることを願っております。

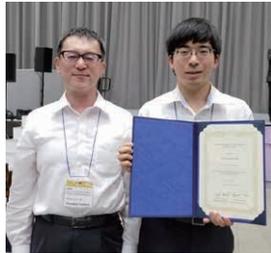
末筆ではございますが、本研究発表会の開催にあたり、ご支援、ご協力を賜りました皆様方、並びにご来場頂きました皆様方に、この場をお借りして、実行委員会一同心より御礼申し上げます。次年度以降も活発な議論・交流の場となるよう頑張っていきたいと思います。



学生受賞情報

1) 第42回日本神経科学大会、第62回日本神経化学学会大会合同大会で医学部医学科3年の鈴木頌也さんがジュニア研究者ポスター賞を受賞

Neuro2019（第42回日本神経科学大会、第62回日本神経化学学会大会合同大会：2019年7月25～28日、新潟市開催）において、医学部医学科3年の鈴木頌也（すずきのぶや）さんがジュニア研究者ポスター賞 (junior researcher poster award) を受賞しました。



平成30年度の基礎医学修練プログラムにおいてサイクロトロン・RIセンター配属時に経験したデータの解析を継続的に進め、今回の学会発表にこぎつけました。

受賞対象となった研究発表のタイトル：

Effects of antihistamines on regional glucose metabolic changes in human prefrontal cortex during cognitive tasks

2) 第92回日本生化学会年会で医学科5年の奈良和樹さんが若手優秀発表賞を受賞

2019年9月18日（水）から20日（金）まで、パシフィコ横浜で開催されました「第92回日本生化学会年会」におきまして、医学部医学科5年生の奈良和樹さんが、口頭発表およびポスター発表を行い、若手優秀発表賞を受賞しました。



演題名：「細胞内SAM濃度レポーターに基づいたスクリーニング系による新規MAT2A阻害剤の同定」

3) 2019年度 医学部学生奨学賞受賞者

医学部学生奨学賞は、東北大学の学生で、学業成績が優秀であり、学会や主要学術誌に学問的価値の高い研究を発表した学生に贈られます。



- 最優秀賞 織部 峻太郎（5年）
Hydrogel-Based Organic Subdural Electrode with High Conformability to Brain Surface
- 優秀賞 奈良 和樹（5年）
細胞内SAM濃度レポーターに基づいたスクリーニング系による新規MAT2A阻害剤の同定
- 優秀賞 光石 清人（5年）
Beneficial Effects of Drug-eluting Stents With Bioabsorbable Polymer Coating on Coronary Hyperconstricting Responses and Adventitial Vasa Vasorum Formation in Patients With Angina Pectoris-An Intracoronary OCT Study-
- 優秀賞 山中 美慧（4年）
CD45/CD326 Doubly-Positive Cells Exist in Non-Small Cell Lung Cancer:A Possible Predicting Factor for Patient Prognosis
- 奨学賞 青木 献広（6年）
肺扁平上皮癌におけるS100A10の高発現は予後不良と相関する
- 奨学賞 乙竹 秀明（6年）
漢方エビデンスレポートからみえる漢方薬の臨床研究の現状と変遷
- 奨学賞 関 俊樹（6年）
機能画像を用いた高齢女性の骨密度低下とアルツハイマー型認知症の脳血流低下領域に関する研究
- 奨学賞 鶴崎 望（6年）
魚摂取量と認知症発生リスクの関連：大崎コホート2006研究
- 奨学賞 山中 慎也（6年）
糖代謝異常を有する妊婦と新生児出生体重に関する検討
- 奨学賞 伊藤 一真（5年）
Mechanisms of ABCB1 in Acquisition of Taxane Resistance in Cancer Cells
- 奨学賞 井手 理央子（4年）
膵神経内分泌腫瘍におけるSSTR2および各種ホルモンの定量解析とその関係
- 奨学賞 蛭名 広貴（4年）
アルドステロン産生腺腫におけるKCNJ5免疫組織学的評価方法の均霑化
- 奨学賞 小野寺 啓（4年）
2012年から2017年の日本人原発性アルドステロン症手術例125の体細胞遺伝子変異の頻度と病理組織学的所見との相関関係
- 奨学賞 後藤 裕太郎（4年）
Characteristics, behavior and role of biomarkers in metastatic triple-negative breast cancer
- 奨学賞 佐藤 稔久（4年）
腫瘍に対する術前補助療法後に遺残する腫瘍細胞の分子病理学的解析
- 奨学賞 菊川 柚奈（3年）
東北大学病院における入院中患者に処方された漢方薬の調査報告

アメリカ留学体験記

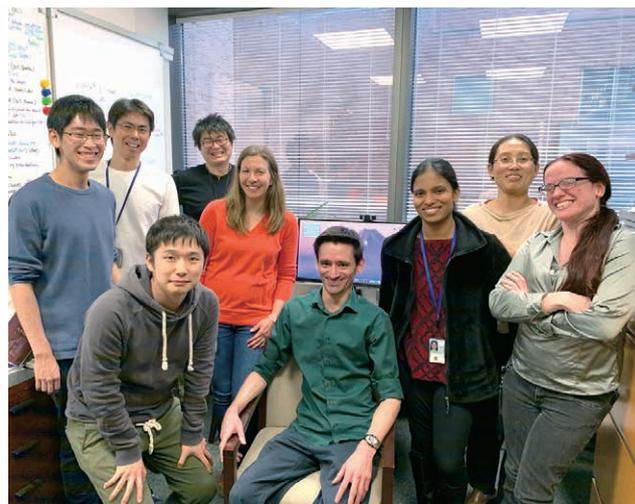
医学部医学科3年 中村 捷

私は、基礎医学修練中に約3ヶ月間、米国の国立衛生研究所（NIH）に留学した。NIHは世界でも最大規模の医学系研究施設で、敷地内にクリニカルセンターを持ち、基礎研究と臨床を交流させていることが特徴である。私はかねてから国際交流に興味があり、また、世界最先端の研究に触れてみたいという思いから、NIHへの留学を希望した。

海外での生活は初めてであったが、幸い、NIHに留学する同級生が他に2人おり、出発の準備、現地での生活ともに大変助けられた。研究室では、心臓の刺激伝導系に関する研究に参加した。PIの向山先生をはじめ、メンバーは皆親切で、とても充実した時間を過ごすことができた。滞在している間、多くのセミナーに参加したが、どのセミナーでも多くの質問が飛び、活発な議論が交わされていることに驚いた。また、研究の質は本学と変わらないが、予算が潤沢であると感じた。予算にゆとりがあれば、様々な予備実験を重ねることができ、確実な結果を得ることができる。このような点が米国の突出した

研究力を支えているのだと感じた。

最後になるが、留学の機会を与えて下さった東北大学とNIHの方々、家族に感謝をしたい。この貴重な経験を活かし、今後も努力していきたいと思う。



イギリス留学体験記

医学部医学科3年 飯塚 友理子

今回私は基礎医学修練にて、イギリスのエクセター大学医学部、小黒—安藤麻美先生がPIのラボ (Autism and Neuropsychiatric disorders research) に半年間留学してきました。エクセターはイギリスの南西部、海岸沿いに位置する小さな都市ですが、エクセター大学医学部はイギリスの医学部の中でもトップ5に入る程の勢いがあります。私はそこで、遺伝子編集技術 CRISPR/Cas9 System を用いて EPO に関する研究を行いました。最初は自信のなかった英語のディスカッションも、国籍多彩なラボのメンバーと毎日英語で話し合いながら働いて行く中で、最終的には自信に繋がりました。プライベートの方でも、よくご飯に行ったり、休日は一緒にイギリス旅行に出かけたりと、とても仲良くさせてもらい、ラボ最終日には手作りのアルバムをサプライズで頂きました。また、エクセター大学に正規の留学生として受け入れてもらったため、大学にて英語の授業を取ったり、医学部の授業を受けたり、部活動に参加することができ研究以外の面でも非常に充実した時間を送りました。さらに、現地の学生3人とシェアハウスで暮らしていたため、家に帰って

も英語漬けの環境はとても刺激的でした。この半年間で、自分の研究者としてのキャリアについてより具体的なイメージを国際的な視点から掴むことができ、公私共に実りある留学活となりました。お世話になった皆様、この場を借りて感謝申し上げます。



東北大学医学部学生後援会(PTA)主催の「入学記念祝賀会」中止のご案内

令和2年4月3日(金)に開催を予定しておりました東北大学医学部学生後援会(PTA)主催の「入学記念祝賀会」につきまして、新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の対策に伴い、開催中止となりました。

今年も開催を楽しみにお待ちしておりますが、なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度東北大学入学式につきましては、新型コ

ロナウイルス感染症の拡大防止のため、カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)での式典の中止が決定いたしました。

情報は、随時研究科ホームページ上で公開・更新しますので、最新の情報をご確認ください。

<https://www.med.tohoku.ac.jp/>

事務室

クラウドファンディングのご案内

【プロジェクト名】

心の病がある方もない方も共有できる体験を。
「春の茶会」継続へ

【プロジェクト期間】2020年2月14日から3月25日

【目標金額】50万円

<https://readyfor.jp/projects/31053>



【プロジェクト名】

ラジオ番組「知って安心、てんかん」で社会の誤解を減らしたい

【応募期間】2020年3月2日から4月30日

【目標金額】90万円

<https://readyfor.jp/projects/hosp-tohokuepilepsy>



編集後記

医学部学生後援会(PTA)は、会員の皆様方、学生及び教職員の方々に支えられ12年目を迎える事ができました。

心から感謝申し上げます。

今春も、夢と希望に満ち溢れた新入生の皆様方の入学を心からお慶び申し上げます。

また、入学後の学生生活に係る支援の一端を担えさせていただければ幸いです。

本学生後援会(PTA)は、学生への支援・助成活動

【入学祝賀会開催、新入生オリエンテーション及びオープンキャンパスへの助成、学生用図書整備と充実、卒業謝恩会への助成等】などに積極的に取り組み、その活動の様子を年2回発行する学生後援会(PTA)会報により会員(保護者)の皆様方にお知らせしております。

また学生、保護者として、本学部教職員との交流にも努めてまいりますので、更なる御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学生後援会事務室 (PTA)

東北大学医学系研究科では、ホームページやSNSでプレスリリース・ニュース・イベントの発信を行っております。

現在、特集・インタビューで新型コロナウイルス感染症「COVID-19」につきまして

微生物学分野 押谷仁教授

【新型コロナウイルスに我々はどう対峙すべきなのか】も掲載しております。

●東北大学医学系研究科 HP

<http://www.med.tohoku.ac.jp/>

●東北大学医学系研究科 Twitter

https://twitter.com/tohoku_univ_med

●東北大学医学系研究科 Facebook

<https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine>



東北大学医学部学生後援会(PTA)事務室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1

TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp

<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>